

編集後記

今号では論文2本、研究ノート2本、実践報告1本、エッセイ1本、報告4本を掲載することができました。日本学刊に貴重な原稿をお送りいただいた投稿者の先生方にあらためて感謝申し上げます。研究の対象地域そして研究者の所属地域が香港、台湾、日本、中国大陸にまたがっており、東アジアにおける日本語教育・日本研究に幅広く資する内容になっております。日本学刊は1997年という香港返還の記念すべき年から本年2019年まで、2009年の一回を除き毎年出版されてきた学術誌です。これからも日本に関係する学者、教育者、実践者、学生のプラットフォームを目指して、香港の多言語環境を生かし日本語・英語・中国語の3言語での投稿を広く受け入れて行く予定です。

また本年からは日本学刊と別に、香港日本語教育研究会から「香港日本語教育フォーラム」というニュースレターを発行し、香港での日本語教育に関わる学会、セミナー、図書案内、コラムなどの各種情報をより頻繁に共有していけるようにしております。ニュースレター立ち上げにおいて国際交流基金派遣日本語教育専門家の斎藤誠先生に多大な支援を頂いたことをここに記しておきます。

来年2020年には日本語教育国際研究大会がマカオ大学で開催されます。香港日本語教育研究会ではマカオ・香港の各大学や日本語教育機関と緊密な連携を取り、デジタル化グローバル化に伴う日本語教育の変化と課題、地域を越えて共有できる技術革新と地域間の差異から生まれる研究課題を見出すべく活動しております。世界の日本語教育関係者の皆様に参加していただき、デジタル化グローバル化が生み出す課題にどう向かい合っているかを教えて頂ける機会を楽しみにしております。また広東語、北京語、英語、ポルトガル語、インドネシア語、タガログ語など多言語が飛び交うマカオ・香港で日本語がどのように学ばれているのか、話されているのかを見に来てくださればと願っております。

最後に毎年の事となりますが、研究の合間を縫って投稿作品を審査して下さった外部査読者の先生方、原稿の誤字脱字を丁寧に指摘して下さった編集委員の皆様にご感謝申し上げます。日本学刊を期日通りに刊行することができるのは皆様が貴重なお時間を割いて、無償でご協力してくださっているおかげです。また香港日本語教育研究会シャノン・ウォン氏が厳しい出版スケジュールの中、レイアウトや査読の連絡を担当してくれたおかげで無事出版に至っていることを感謝と共にここに記します。

編集委員長 青山 玲二郎

2019年5月吉日